

## 10/15 コリント人への手紙第一 9章 24-27節「あらゆることに節制して」

小池 宏明 牧師

今朝の箇所では、競技場で走る人々の姿が出てくる。パウロは、何とかして何人かでも救い出すために福音宣教にかける生き方を説くために、当時のコリント人々にとって身近な競技大会の様子を例えて用いた。ギリシア世界ではオリンピックゲーム（4年に一度）が有名だが、コリントの町でも、コリント地峡競技大会が二年に一度開催されていた。コリント人々はこの大イベントに熱狂していたようだ。

### \*一生懸命走り続けるように

24節「競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのは一人だけだということを、あなたがたは知らないのですか。ですから、あなたがたも賞を得られるように走りなさい。」この箇所は、コリントのクリスチャンたちの中で、他の兄弟姉妹を出し抜いて、一人だけ入賞するように信仰生活を突っ走れ、と勧めているわけではない。私たちの信仰生活は、スタートしたら自動的にゴール・インできるわけでも、入賞できるわけでもない。その事をわきまえて、御国に至るゴールを目指して一生懸命走り続けるようにという励ましである。

### \*あらゆることを節制して

25節「競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのはです。」「節制」とは、「力の中にある」という言葉が使われていてセルフ・コントロールの力があることを現わしている。主の御前に誓ったこと、他人と約束したことは果たすように努めること、罪咎、過ちは避ける、誘惑から遠ざかることなど、基本的なキリスト者の生活の仕方を現わしている。27節でパウロが「私は自分のからだを打ちたたいて服従させます」と語っていることも、セルフ・コントロールのことであると理解されている。すなわち、節制して生きるとは、自分の心も体も、三位一体の神様のご支配に服せるようにコントロールしながら生きることであろう。

私たちは、福音のためにあらゆることをする（23節）と言うパウロの決断、そのために、「あらゆることについて節制する」「自分のからだを打ちたたいて服従させる」と述べるパウロの真剣な、緊張感のあるライフスタイルを、少しでも目指して、見習って、歩んでいきたいと願う。